

この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください。

フィブリン分解産物キット パスファーストDダイマーH

<PATHFAST®>

●全般的な注意

1. 本品は体外診断用医薬品です。それ以外の目的には使用できません。
2. 診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断してください。
3. 添付文書以外の使用方法については保証をいたしません。
4. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用してください。
- * 5. 校正剤（2）にはヒト血液成分が含まれています。原料血液成分等にはHBs抗原、HIV抗体、HCV抗体検査等で陰性のものを使用していますが、感染の危険があるので感染性のあるものとして取扱ってください。

●形状・構造等（キットの構成）

1. 磁性ラテックス試薬
抗ヒトDダイマーマウスモノクローナル抗体感作磁性ラテックス
（抗Dダイマーマウスモノクローナル抗体感作磁性ラテックス）
 2. 標識抗体試薬
アルカリホスファターゼ標識抗ヒトDダイマーマウスモノクローナル抗体
（ALP標識抗Dダイマーマウスモノクローナル抗体）
 3. 発光基質
2-クロロ-5-（4-メトキシスピロ〔1, 2-ジオキセタン-3, 2'-（5'-クロロ）-トリシクロ〔3. 3. 1. 1^{3, 7}〕デカン〕-4-イル）-1-フェニルホスフェート・二ナトリウム
（慣用名：CDP-S t a r）
 4. 検体希釈液
 5. 洗浄液（1）
 6. 洗浄液（2）
 7. 洗浄液（3）
 8. 校正剤（1）
 9. 校正剤（2）
 10. 校正剤希釈液
- ※ 1. ～ 7. は試薬カートリッジに充填されています。

●使用目的

血漿又は全血中のDダイマーの測定

*●測定原理

本キットは、化学発光酵素免疫測定法（CLEIA；Chemiluminescent Enzyme Immunoassay）を原理とするDダイマー測定試薬です。

検体中のDダイマーと抗Dダイマーマウスモノクローナル抗体感作磁性ラテックス及びALP標識抗Dダイマーマウスモノクローナル抗体を結合させ、過剰のALP標識抗Dダイマーマウスモノクローナル抗体を除去した後、抗原抗体反応により形成された免疫複合体のALP酵素活性を発光基質を用いたCLEIAにより測定し、検体中のDダイマー濃度を求めます。

次の様な特徴を有しています。

- ・発光基質CDP-S t a rを用いた化学発光酵素免疫測定用試薬です。
- ・測定開始後約 17分で結果が印字されます。
- ・測定に必要な試薬がカートリッジに充填されていますので試薬調製の手間が要りません。

●操作上の注意

1. 検体
 - 1) 検体はクエン酸加血漿又はクエン酸加全血、ヘパリン加血漿又はヘパリン加全血を使用してください。採血した検体は混同しないように表示区別してください。
 - 2) 全血検体は採血後 4時間以内に測定してください。測定直前に、赤血球塊が均一化するよう、採血管を静かに転倒混和してください。又、全血検体を検体ウエルに分注した後、直ちに測定を開始してください。

- 3) 不溶物を含む検体は遠心分離又は濾過により除去した後使用してください。
- 4) 検体へのゴミ、カビ、細菌類、洗剤等の混入は絶対に避けてください。
- 5) 検体及び校正剤等を分注するときは、泡立てないように注意してください。
- 6) 血漿検体を保存する場合には-20℃以下で保存してください。凍結融解を繰り返した保存検体は測定しないでください。

2. 妨害物質

- 1) 以下のフィブリン分解産物及びフィブリノーゲンはかつこ内に表示されている濃度までは測定結果に影響は認められませんでした。フィブリノーゲン（5 mg/mL）、フラグメントX、フラグメントY、フラグメントD（20 µg/mL）
- 2) 以下の共存物質はかつこ内に表示されている濃度までは測定結果に影響は認められませんでした。¹⁾遊離ビリルビン（60 mg/dL）、抱合ビリルビン（60 mg/dL）、乳び（3,000ホルマジン濁度）、溶血（ヘモグロビン濃度として 500 mg/dL）、リウマチ因子（500 IU/mL）
- 3) 高濃度検体（50 µg/mL FEUを超える）では、結果が低値として表示されることがあります。

3. 本品はパスファースト®の専用試薬です。

●用法・用量（操作方法）

1. 試薬の調製方法

- 1) 磁性ラテックス試薬 : そのまま使用します。
- 2) 標識抗体試薬 : そのまま使用します。
- 3) 発光基質 : そのまま使用します。
- 4) 検体希釈液 : そのまま使用します。
- 5) 洗浄液（1） : そのまま使用します。
- 6) 洗浄液（2） : そのまま使用します。
- 7) 洗浄液（3） : そのまま使用します。
- 8) 校正剤（1） : そのまま使用します。
- 9) 校正剤（2） :
校正剤（2）に校正剤希釈液 1 本分全量を、液滴を残さないように注意しながら加えます。約 15分静置後、緩やかに転倒混和して完全に溶解したことを確認して使用してください。校正剤（2）と校正剤希釈液は同一のロット番号の製品を使用し、異なったロット番号の組み合わせでは使用しないで下さい。調製した校正剤溶液は、冷蔵保存（4℃）で 3日間安定です。又、凍結保存（-20℃）すれば 12週間安定ですが、繰り返しの凍結融解は 3回までとしてください。

2. 測定操作法

検体 25 µLに検体希釈液 25 µL、磁性ラテックス試薬 50 µL及び標識抗体試薬 50 µLを加えて 37℃で 5分間反応させた後、洗浄液（1）、（2）、（3）各 400 µLで 3回洗浄します。次いで発光基質 100 µLを加え、37℃で 3分間酵素反応をさせながら発光量を測定します。検体と同様に操作したときの校正剤（1）及び（2）の発光量と対比して検体中の濃度を求めます。

** 3. パスファースト操作法

パスファーストの操作は以下に行います。
試薬カートリッジを必要数取り出しカートリッジラックに載せます。校正剤（1）は直接ノズル先端を検体ウエル壁面に垂直に当てて、また調製した校正剤（2）はスポイト等を使用して検体ウエルの目盛り線（100 µL）まで分注した後、パスファーストにセットします。専用チップ（PATHFAST TIP）をセットし、チップ廃棄ボックス（PATHFAST WASTE BOX）にチップが残っていないことを確認します。試薬キットに添付されている基準検量線情報シートのパークード情報をパスファーストのパークードリーダーで読み込みます。基準検量線情報の読み込みは試薬のロットが変わった時点で行ってください。検体種情報（CAL1又はCAL2）を入力後、**START**を押し、校正を実行します。校正操作は 4週間毎に、又、試薬のロット番号が変わった時点で行ってください。次いで検体を検体ウエルに分注した後、パスファーストにセットします。検体種情報（検体ID等）を入力後、**START**を押し、測定を実行します。測定が終了すると、結果が印字されます。濃度はµg/mL FEUで表示されます。又、必要に応じて精度管理物質を検体ウエルに分注した後、パスファーストにセットし、検体種情報（QC1又はQC2）を入力後、**START**を押し測定を実行し、精度管理を行います。
§ FEU：Fibrinogen Equivalent Unit

●測定結果の判定法

1. 参考基準範囲 0.5 μg/mL FEU 以下^{1) 6)}
基準範囲は種々の条件下、各検査室により変動する可能性がありますので、各施設にて適した値を設定してください。
2. 判定上の注意
- 1) 検体によっては、まれに検体中の目的成分以外（HAMA等他）との反応や妨害反応を生じることがあります。測定値や測定結果に疑問がある場合は、再検査や希釈再検査により確認してください。希釈再検査を行う際には別売の専用希釈液 PATHFAST SAMPLE DILUENT 3（製品番号：PF03D）をお使いください。
- 2) 採血管については、分離剤等が測定値に影響を与える場合がありますので注意してください。
- 3) 診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断してください。

●性能

弊社の品質管理基準に基づいた値です。

1. 感度
Dダイマー濃度 0 μg/mL FEU及び 0.005 μg/mL FEUの標準液を各々3回測定するとき、0.005 μg/mL FEUの平均値－2SDは 0 μg/mL FEUの平均値＋2SD以上を示します。
2. 正確性
既知濃度の管理検体を測定するとき、既知濃度±20%以内です。
3. 同時再現性
管理検体を 3回同時測定するとき、C.V. 値は 10%以下です。
- * 4. 測定範囲
0.005～5.00 μg/mL FEU （バスファースト使用）
5. 相関性試験成績
本法と酵素免疫測定法（EIA）2法の血漿検体における相関は、以下のとおりでした。
- 1) n = 113, r = 0.913, y = 0.990 x + 0.197 （y：本法）
2) n = 66, r = 0.907, y = 1.073 x + 0.102 （y：本法）

●使用上又は取り扱い上の注意

1. 取り扱い上の注意
- 1) 検体は、H I V、H B V、H C V等の感染の恐れがあるものとして取り扱ってください。
- 2) 検査にあたっては、感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、口でのピペッティングは行わないでください。
- 3) 標識抗体試薬、検体希釈液、洗浄液（1）、洗浄液（2）、洗浄液（3）、校正剤（1）及び調製後の校正剤（2）には、0.05%のアジ化ナトリウムが含まれていますので、誤って目や口に入ったり、皮膚に付着した場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当て等を受けてください。
2. 使用上の注意
- 1) 校正剤（1）、（2）と試薬カートリッジは同一のロット番号の製品を使用し、異なったロット番号の組み合わせでは使用しないでください。
- 2) 全ての試薬は貯蔵方法に従って保存し、使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。又、試薬カートリッジはカートリッジトレイに入れ、正立保存してください。
- 3) 凍結もしくは凍結された恐れのある試薬は使用しないでください。
- 4) 補充用として包装欄に記載の製品があります。
- 5) 床に落下した試薬カートリッジは使用しないでください。測光ウエル等の汚染により測定結果に影響を与える恐れがあります。
- 6) 試薬カートリッジを取り扱う際には試薬カートリッジの先端を掴むようにして、その他の部分は素手で触れないように取り扱ってください。又、唾液や細菌等により汚染しないように扱ってください。A L Pの混入により測定結果に影響を与える恐れがあります。
- 7) 試薬カートリッジ上のバーコードには試薬の重要な情報が含まれておりますので触らないように取り扱ってください。バーコードの読みとり不良により測定結果に影響を与える恐れがあります。まれに、カートリッジ内の試薬に気泡が付着している場合や試薬がカートリッジのアルミシールに付着している場合がありますが、その場合はカートリッジの端を摘んで軽く机に打ち付けるなどして気泡を取り除く、試薬をアルミシールからウエルに落とす等の処置を行ってください。
- 8) 床に落とした専用チップ（PATHFAST TIP）は使用しないでください。チップの先端は手で触らないでください。汚染により測定結果に影響を与える恐れがあります。

3. 廃棄上の注意

- 1) 検体、検査に使用した器具類及び廃液は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000 ppm、1時間以上浸漬）、グルタールアルデヒド溶液（2%、1時間以上浸漬）等での消毒又はオートクレーブ処理（121℃、20分以上）を行ってください。
- 2) 標識抗体試薬、検体希釈液、洗浄液（1）、洗浄液（2）、洗浄液（3）、校正剤（1）及び調製後の校正剤（2）には、0.05%以下のアジ化ナトリウムが含まれています。アジ化ナトリウムは、爆発性の強い金属アジドを生成することがありますので、廃棄は大量の流水で行ってください。
- 3) 試薬、検査に使用した器具類及び廃液を廃棄する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等に従って、廃棄してください。

●貯蔵方法、有効期間

1. 貯蔵方法 2～8℃
2. 有効期間 キットの有効期間：18ヵ月

* ●包装

製品番号	包装単位	
PF0051-K	磁性ラテックス試薬	50 μL × 60 個
	標識抗体試薬	50 μL × 60 個
	発光基質	100 μL × 60 個
	検体希釈液	50 μL × 60 個
	洗浄液（1）	400 μL × 60 個
	洗浄液（2）	400 μL × 60 個
	洗浄液（3）	400 μL × 60 個
	校正剤（1）	2 mL × 1 本
	校正剤（2）	1 mL 用 × 2 本
	校正剤希釈液	1 mL × 2 本

別売品

- 1) PATHFAST TIP 42本×5／箱
2) PATHFAST ROLL PAPER 10本／箱
3) PATHFAST WASTE BOX 10個／箱
4) 専用希釈液
PATHFAST SAMPLE DILUENT 3 20 mL×2本

●主要文献

- 1) 社内資料
- 2) Bounameaux H, de Moerloose P, Perrier A, Reber G. Plasma measurement of D-Dimer as diagnostic aid in suspected venous thromboembolism: an overview. Thromb. Haemost. 1994;71:1- 6.
- 3) Bounameaux H, de Moerloose P, Perrier A, Miron MJ. D-Dimer testing in suspected venous thromboembolism: an update. QJ Med 1997;90:437- 442.
- 4) Freyburger G, 1992 Trillaud H, Labrousche S et al. D-Dimer strategy in thrombosis exclusion. A good standard study in 100 patients suspected of deep venous thrombosis or pulmonary embolism: 8 DD methods compared. Thromb Haemost 1998;79:32- 37.
- 5) Perrier A, Desmarais S, Miron MJ et al. Non-invasive diagnosis of venous thromboembolism in outpatients. Lancet 1999; 353: 190- 195.
- 6) Fukuda T, Miyazawa Y et al. A rapid and quantitative D-Dimer assay in whole blood and plasma on the point-of-care PATHFAST analyzer. Thromb Res 2007;120:695-701.

** ●問い合わせ先

PHC株式会社 インフォメーション担当
TEL：03-6865-2500
E-mail：medi-ho-service@egg.phchd.com

「CDP－Star」は Applied Biosystems, LLCの商標です。

** 製造販売元

PHC株式会社
東京都千代田区有楽町1-13-2